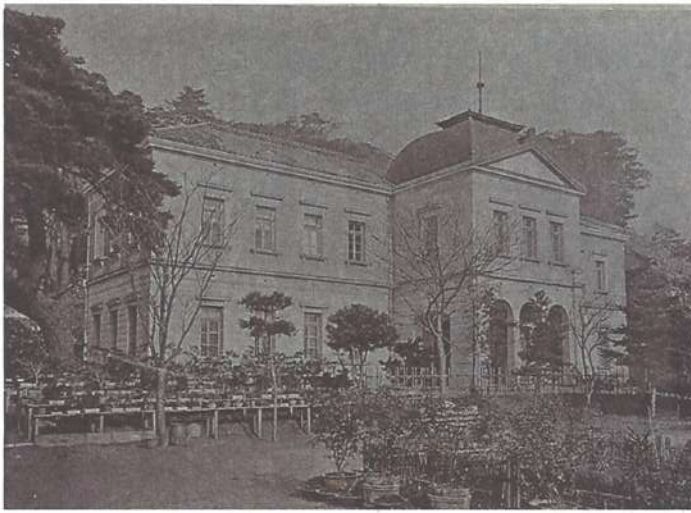


写真に見る 115年前の長崎

日露戦争時代

一 順野 姫



①明治29年に完成した長崎商品陳列所（長崎外国語大所蔵）

□ 22 □

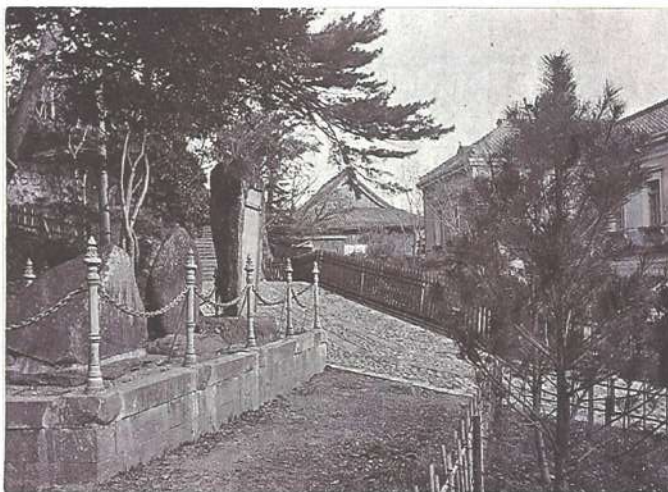
商品陳列所と諏訪の杜入口

写真①は、明治29（1896）年12月に伊粕町の長崎公園入口（現日本銀行長崎支店）に完成した長崎商品陳列所。2階建ての豪華なレンガ造りの洋館は、明治30年代の長崎の殖産興業を象徴している。

この場所は歴史的に長崎の経済振興との関わりが深い。明治10（1877）年3月に諏訪の杜などで開かれた長崎博覧会の主会場となった後、明治12年、広運館（外国語学校）のフランス人教師で領事のレオン・デュリから製法を教わった松田雅典が、日本初となる缶詰試験所を開設した場所でもある。

商品陳列所は、明治30（1897）年2月に開催される第9回九州沖縄8県連合共進会（商品見本市）の主会場として建設された。展

示物は「自ら耕作または製造する売品」に限られ、小麦、繭、生糸、茶、砂糖、製造タバコ、織物、花むし



②諏訪の杜入口。大きな石碑はシーボルト記念碑、左の三角の石碑はケンペルとツンペルクの記念碑（長崎外国語大所蔵）

ろ、陶磁器、スルメ、アワ

め二つの部門を設けた。出品部は長崎県市の重要な物産を集め、将来の物産開発の参考となる物品や機械器具などを、写真や模型を交えて陳列した。調査部は県産品の海外販売を調査し、参考となる工業所有権の図案や、産業に有益な報告書、雑誌、カタログを収集した。陳列所は昭和16（1941）年から長崎市立博物館となる。

日本銀行の長崎営業所は昭和20年4月に梅香崎の横浜正金銀行長崎支店内で開設された。原爆後の昭和24年3月に長崎支店を開業し、長崎市立博物館を増改築して移転した。

写真②は、商品陳列所裏の諏訪の杜の入口である。大きな石碑は、明治12（1879）年に大隈重信、寺島宗則、佐野常民の呼び掛けで完成したシーボルト記念碑。撰文は工芸史家の大森惟中、篆刻は小曾根乾堂が記している。左の三角の石はこの時、出島から移設されたシーボルトによるケンペルとツンペルクの記念碑であるが、今は出島に戻されている。背後は明治43（1910）年まで伊粕町にあった曹洞宗高林寺の本堂である。（長崎外国語大校長）

明治期の殖産興業を象徴



長崎外国語大のホームページにアクセスできるQRコード

随時掲載します